

国保税の値上げストップをめざして、「上越市の国保をよくする会」が正式発足

住民税などの負担が次々と増え、物価も上昇するなかで、新年度の国保税がどうなるか、市民の皆さんの関心が高まってきています。それは市が、国保税の大幅値上げが新年度以降必要となるという見通しを昨年の12月議会です示したからです。

こうしたなか、22日、「上越市の国保をよくする会」が正式に発足し、国保税値上げ反対の署名運動をおこなうことなどをきめました。この会には、市内から約50人が参加しました。

冒頭、「上越市の国保をよくする会」準備会の代表を務めた宮崎陽代表（上越民商会会長）が挨拶、自営業者などの実態や会設立のねらいなどをのべました。その後、党市議団長の杉本敏宏市議がこれまでの経過などを報告、新潟市社会保障推進協議会の野本孝子事務局長が「国保改善運動はいのちと暮らしを守る砦」と題して講演しました。

杉本議員は、「数年前まで県内1・2位の国保税額の高さだった旧上越市は、H17年の合併後に、周辺自治体の国保税額にあわせて2度の引き下げをおこなったが、それでも大幅増税になったところがあった。国保会計の補填にあてていた財政調整基金が底をつき、増税計画がでてきたが、最大で1人、2万1000円、33%増の可能性もある値上げは容認できない。一般会計からの法定外繰り入れをおこなうことで値上げをストップさせよう」と、訴えました。

野本事務局長は、06年に値上げ幅を抑えた新潟市の国保運動の経験も紹介しながら、「小泉構造改革によって命の格差が起きている。高齢化や雇用の不安定化によって国保加入者はどこでも急増している。国保加入者は所得200万円以下が6割を占めるなど、収入は少ないが、医療はたくさん受けなくてはいけない人が多く、もともと赤字になる構造になっている。にもかかわらず、国庫負担率は4

5%から30%前後まで削減され、これが赤字と国保税値上げに転化して『払いたくても払えない高い国保税』をつくっている。一般会計からの繰り入れは待たないで求められている。国は、『国保は相互扶助制度』と主張するが、そもそも『国保制度は社会保障制度』。国保運動が、社会保障切りすてを止める大きな切り口になる。国保はいのちと暮らしを守る砦。制度改善運動へ市民の期待は大きいことに確信をもって取り組んでいきましょう」とのべました。

最後に、関口 庄六代表（年金者組合執行委員長）から、会の正式発足と署名運動が提起され、大きな拍手で確認されました。



会場からは、すでに50人、90人と署名を集めた経験、市民の大きな期待の声も紹介されました。写真は講演する野本新潟市社会保障推進協議会事務局長。



点火前のひと時

子どものころに行われた「さいの神」のことはいまでも忘れない。ホラ貝を吹いたときの「ヴォー」という音、真っ黒焦げになった餅がうまかったことなど、なぜか鮮明に憶えている。そういえば、火の中に五円玉が投げ入れられ、それを見つけ出した人はその年にはいいことがあると言う人もいた。夢中でさがしたものだ。

今年の「さいの神」でのこと。もうすぐ点火という時、元気に飛び回っている子どもたちの姿がとてもうれしかった。雪投げ、かけっこ、押し相撲など次々と遊びを思いつき、歓声を上げながら楽しむ姿は昔も今も変わらない。子どもたちがいるから「さいの神」がある。

「さいの神」があるかぎり地域は生き残る。

（写真は12日、吉川区にて撮影）

日本共産党上越市議員団ニュース

No.123	2008年1月27日
連絡先 杉本敏宏	524-3787 (東本町5)
樋口良子	544-6802 (中門前3)
橋爪法一	548-3628 (吉川区代石)
事務局長 上野公悦	530-2203 (頸城区中柳町)